

法律科目試験問題（刑法） 配点 50 点

以下の【事例】を読み、甲、乙の罪責を論じなさい（特別法違反の点を除く。）。

【事例】

1. 某年8月10日、甲は、会社の後輩乙とともに、甲の居室から飲食店Aにいる女友達に何度も電話をかけたところ、店長Vからそのたびに取次ぎを拒否され、侮辱的な言葉を浴びせられたことに憤激し、同店の閉店時刻である22時以降に押しかけ、Vに暴力をふるって復讐しようとした。そして、「Vは俺が店に行くたびに邪険な態度をとる。客をなんだと思っているんだ。あんな無礼な奴はコテンパンにやっつけてやる」と憤慨し、同行を渋る乙に「お前に10万円貸しているのを忘れたわけじゃないだろうな。お前の方が若くて体力もあるんだから、俺のために一働きしてくれ」としつこく頼んだ。乙は、面倒なことに巻き込まれたくないと思ったが、会社の先輩で10万円の借金もある甲に頭が上がらず、Vに2人で暴力をふるうことにしぶしぶ同意した。
2. 同夜22時30分頃、甲と乙は、一緒にタクシーで飲食店Aに向かった。甲は、状況によってはVを殺害することもやむを得ないと考え、タクシー内で「やられたら、これを使え」と乙に刃渡り約10cmの果物ナイフを渡した。同店付近に到着後、甲は外の少し離れた場所待機し、乙のみを1人で同店入り口付近に向かわせた。
3. 乙は、Vに対し自ら暴行を加える意思はなく、Vからいきなり暴力をふるわれることもないだろうと考えて同店入り口から店の中をうかがっていたところ、1人で片づけをしていたVから甲と取り違えられ、いきなりえり首をつかまれ、引きずり回された。乙は、Vに殴打、転倒させられ、殴り返すなどして応戦したが、頼みとしていた甲の加勢もなく、再び路上に殴り倒されたため、自己の生命・身体を防衛する意思で、甲から渡されたナイフを使い、Vの肩の辺りをめがけて力いっぱい切りつけた。Vは路上に転倒し、肩を抑えてうめいていたが、急にぐったりして動かなくなったため、乙は動転して現場から逃げ去った。
4. 少し離れた場所で乙とVがもみ合い、乙がVをナイフで切りつけるのを見ていた甲は、乙が走り去った直後の23時30分頃に現場に駆けつけた。甲は、倒れたVの出血がひどく、Vが全く動かない様子を見て、Vはすでに死亡したものと思い込み、Vをその場に放置して逃げ去った。
5. Vは、翌8月11日午前1時頃、たまたま通りかかった通行人に発見され、救急車で病院に運ばれた。しかし、その時点ですでに心肺停止状態で、医師による必死の救命治療もむなしく、午前3時に死亡が確認された。司法解剖の結果、Vの死因は急性心臓麻痺と認定された。Vが乙から受けた肩への傷害は全治2週間程度の浅いものであったが、Vには、本人も主治医も気づいていなかった高度の心臓病変があり、乙から暴行や傷害を受けたショックにより、心臓発作が誘発されたことが判明した。